

■平成 28 年度 第 1 回室蘭市文化財審議会 議事録

1、日時

平成 29 年 2 月 23 日 13:30～15:55

2、場所

室蘭市役所 本庁舎 2 階 1 号会議室

3、出席者

審議会 井口会長、堀井副会長、新井山委員、山田委員、菊地委員、吉田委員
(欠席：上村委員)

市教委 國枝教育長、杉本部長、北川主幹 (文化振興・青少年)、松田

4、次第

(開会)

事務局 (北川) 定刻となりましたので、本日の審議会開催いたします。進行につきましては、会長に司会いただきますのでよろしくお願いいたします。

(教育長あいさつ)

井口会長 では、まず國枝教育長よりごあいさつをいただきます。

國枝教育長 (時候あいさつ) 日頃の協力に感謝。人口減少する中で、地域の歩みを残してゆくことの重要性を認識。旧絵鞆小はじめ、専門的見地から本日のご審議をお願いしたい。

(議事)

議事 1 歴史的建造物、旧絵鞆小学校敷地及び建物の活用について

井口会長 では、一つ目の議事、旧絵鞆小に関して、事務局より説明を。

事務局 (北川) (事務局説明、略)

井口会長 全国的にも希少。片側は活用・保全ということで進んでいるが、2 棟 1 対の意味があるもの。「片方だけ残すから良い」とはならないだろう。敷地に広がる遺跡の課題もある。委員の皆様からのご意見を願います。

吉田委員 三重県朝日町の円形校舎の例を先日視察してきた。資料を配布したい。

【持参資料配付】

朝日町は室蘭と同じく工場のまちだが、こちらの小学校は現役のまま国の登録有形文化財として活用。県内の国登録有形は 2 例とも同町に所在。

朝日町の円形校舎は、4 階建てで、絵鞆と同じく坂本鹿名夫の設計になるもの。行政もこの歴史的建造物を残そうと耐震改修を行った。

- 井口会長 吉田委員が直接現地視察までしてきたとの事。事務局からでも何か。
- 事務局（松田） 昭和 30 年代のものとして、老朽化の進行は同様かと思うが、「壊して新たな校舎に」という議論には、朝日町ではならなかったのか。
- 吉田委員 人口増によりプレハブ校舎がそれまで使用とのことで、体育館も含め新たな校舎を整備したが、この円形校舎も併用し使われ続けている。
また先々代の町長の思い入れも強かったとうかがった。
絵鞆小は耐震性ないとのことだが、どの程度の診断をした上での見解か。
- 事務局（松田） 市内小学校の耐震性調査として、一次・二次診断を実施。矩型は一時の段階で耐震性低いことが判明。円形校舎は二次診断まで実施し、体育館棟が耐震性満たしていないことが明らかになっている。
- 井口会長 通常の市民感覚としては、つい数年前まで実際に使用していたのに急に耐震性がないからダメとはなかなか理解しがたい。そしてさらに解体へ、というのはなおさらだ。審議会としては、活用方法含めてより継続して審議し方向性を定める必要があるだろう。
また、敷地の活用についても、遺跡が残っていないから民間売却というのは安易。周辺含め、本来あった遺跡の広がり、それをうかがわせる景観も含めて保全すべきだろう。結果として遺跡が残っていないのは、これまで市が開発利用してきた結果で、いわば負の遺産というべき状況。そのくせ「もう残っていないから」と売却するのは、身勝手に本末転倒だ。
冒頭の教育長あいさつでも「どう伝えてゆくのか」というお話があった。事務局が用意した資料にあるように、戦前の段階でこの貝塚がかなり壊されてきたことが把握されている。遺跡の保護活用について、民有地での困難さも以前説明された。しかしここは市有地で、かつ教育委員会の所管。今度は自らの意思で方向性を定められる。「もうこれ以上は（壊させない）」とするのか「だからもうよい」とするか、判断が迫られている。
文化財審議会としては、土地売却含め「待った」と言わなければならない。建物についてはさらに、貴重な遺跡をいわば壊し建てたもの。だからこそ併せて残さなければ。「残す」観点で進めていただきたい。
- 新井山委員 将来的に子どもが増えるというのは状況的に難しいかもしれないが、何らかのほかの利用法を模索するべき。「壊す」ありきで決めてしまうより、将来的な利用含め、残すことで進める方がよい。急ぐ必要はない。
- 國枝教育長 人口減少からすると、学校統合の流れはこの後も進む形になる。まちの人口定住には産業、働き口ふくめた取り組みを要するところで正直難題。
- 新井山委員 以前にも近隣にアパートが建って、子どもたちが急増したことがある。必ずしも今の流れだけで考えるのは得策ではないでしょう。
- 堀井副会長 建物だけではなく、敷地含めて例えばテーマパークのように、一体的に保

存活用することを模索しないと。

菊地委員 先日鉄道廃線になった増毛では、明治期の校舎が「過去と未来をつなぐ建物」として位置付けて活用されている。絵鞆小がつくられた昭和30年代は子どもたちが最も多かった頃で、それを象徴する物件。市は売りたいという考えがあるのですが、いま私たちが後世に、将来に残せるものは、と考え、もう一度検討してください。

井口会長 今度、伊達では総合文化館がつくられようとしている。西胆振ではこれまで室蘭にならってこうした施設は貧弱だったがそれを変える動き。石狩なども非常に立派な施設を設けている。陣屋にある民俗資料館はじめ本市のは非常に見劣りがする。科学館についても同様だ。自然科学分野など、欠落した分野が室蘭には非常にある。例えば苫小牧では、自然史・歴史を含めしっかりとした展示はもとより事業展開をしている。元来室蘭では大人がしっかり学べるものがない。決して需要がないのではないはずだ。過去に市教委でやった地名・歴史の折には多くの受講者がいた。しかし広報を見ても、スポーツ・健康のイベントはあるが、歴史・文化についてはほとんどない。嘆かわしい限りだ。

これまでとりくめていなかった「すき間」をこれからどう埋めてゆくのか。円形校舎のような歴史的建造物をしっかり残し、博物館活動としてつなげるのではどうなのか。民間に用途を見つけさせるのではなく、市教委でここでやるべきことは他にもまだまだあるでしょう。

山田委員 私も残すべきと考える。壊すのは簡単で一瞬。苦しくても、どうやって残すのか。これこそが歴史・文化に対するビジョンを示すこと。

井口会長 行政として難しいというのは理解します。ただ委員の皆さんが発言されたように、解体ありきではなくて、保存活用のためにどれだけ努力できるか、後世への説明含めて市民に示す上でも必要な姿勢でしょう。また、吉田委員の蘭歴建見会の活動についても、行政を動かすのはやはり民意。さらなる掘り起しもふくめて活動継続・活発化が求められるところ。

議事2 遺跡出土のアイヌ人骨等について

井口会長 では続けまして、アイヌ人骨に関する議題。かなりデリケートな話題です。不当性から社会問題となってきた一方、研究上では過敏な反応含め様々な評価があります。すでに報道等が先行している部分もある。注意を要する話題でもあり、より早い時点での審議会開催も必要だったかと正直思う。事務局はこうした点の対応を今後留意されたい。それでは事務局より説明を。

事務局（松田） （事務局説明、略）

井口会長 新聞では「1体」と当初された。それがこのたびは7体と副葬品1件分。副葬品として、人骨に伴い象徴施設への集約が求められるものには、数年前保存処理した鉄製品などもある。また南部家の九曜紋が描かれた漆碗。こちらも崎守の遺跡から出たとのことで、盛岡南部藩領になった折のオムシャ（注：「場所」で行われた和人とアイヌの儀礼行為。本来は遠来の来客への物品の儀礼的贈与。蝦夷地支配進展により非自家産品の和人からの下賜に変容）などによるものかと推測される物件。この点で地域の歴史性を色濃く示しており、「すべて集約」とは確かにどうかと思う。

年代比定は難しいが、近世後半、文化年間以後には、アイヌ集落は今の崎守付近に移り、絵鞆にはほとんど人がいなくなっていたことが記録に残されている。この点で、エンルム遺跡のはそれ以前のものと思われる。

アイヌ協会とも協議を行っているとのことで、基本的な方向性はよいかと思うが、いずれにせよ丁寧な対応を求めたい。

議事3 図書館整備に係る添田家文書の再整理について

井口会長 この話題が「ようやく来た」という感じだ。今まで遅きに失した感はあるが、取り組みを進めることを先ずは評価したい。事務局より説明を。

事務局（松田） （事務局説明、略）

井口会長 図書館の添田文書については、目録あるとされていながら、何があるかわからず活用できないことを、他地域の研究者などから陰で苦情を受けたこともたびたびある。道立文書館などとは違い、「図書館」なのだから、所蔵資料について公開の義務を本来的に負うはずだが、室蘭の図書館はずっと怠ってきたこと、さらにはそれに無自覚であったことを、教育長この場にお越しなので、はっきりとお伝えしたい。

また平成10年にそのうち7点のみ市指定としているが、それだけでよいのか再検討も必要だと思う。今日的に改めて資料的価値の探索も。

事務局（松田） ご指摘の通り未指定物件にも極めて貴重なものがある。このたびの再整理に地方史研究会の方々のご協力も頂けるので、あわせて検討したい。

井口会長 併せて言えば、このたびの再整理で図書館に添田家はじめ郷土資料に精通したスタッフの育成を。利用者へのレファレンスが他地域の図書館に比べ室蘭の図書館はなっていない。尋ねられても「わからない」では話にならない。ごく一部人間が秘匿的に存在を知っているだけではだめだ。それを誰もが利用できるようにするのが図書館の役目でしょう。この点は市指定にした「胆振国室蘭郡全図」や、そのほかの前田さんがかつて収集された古地図、山下元館長が見出したと新聞などで報じられた古書類など、いずれも不適切（公開されていない）な状態のままだ。

他地域の図書館では、郷土資料は室蘭よりはるかに少ない。しかしそれに対してもしっかりとした人員配置をしてレファレンス・管理を行っている。新たな図書館の図面を拝見しても、全体のカウンターが1箇所のみなのは郷土資料への取扱いとして不十分。

資料展示も意気込みはよいが、展示替えなど適正にできないなら複製対応とするなど、資料の劣化をふせぐことを十分留意してもらいたい。

審議会でも資料等の現状・整理方法など随時助言してゆきましょう。

議事4 蒸気機関車移設と旧室蘭駅舎の活用について

井口会長 こちらも新たな話題で新聞等で盛んに出ているもの。事務局説明を。

事務局(松田) (事務局説明、略)

井口会長 基本的に素晴らしい取り組み。駅舎・SL個別ではなく双方の価値を高めることになる。駅舎内の展示を一般にその価値が伝わるように再整備というのもよい。現在の状態は鉄道マニアしかわからないようなもの。

新井山委員 輪西の修理工場、年一回物件展示販売などをおこなっている。こうした取り組みともタイアップできればよいのでは。地域的な縁から夕張と連携して石炭をもってきて展示したりといった様々な取組が可能だろう。

堀井副会長 素朴な意見で、SLを動かせればと思うが、それはやはり難しいのか。

事務局(松田) 移設後に動輪など溶接、またその他の部位についても、経年変化で極めて困難とJRからはうかがっている。

井口会長 実際にはボイラー部分がやはり難しいでしょうね。圧力容器なので。また物だけでなく熟練工を要する。

移設後の維持についてだが、現在携わっている方々の高齢化が課題とのこと。新たな人が参画しやすいような組織作りについては、市側の仕掛けが必要だろう。あまりしっかりとしたものになると、意欲があっても後から参画しにくくなる。

室蘭駅については、明治30年仏坂の下に設けられたものが、明治37年現在のやや奥に移り、さらに明治45年線路延伸で現在地に至っている。駅舎自体は通常明治45年「新築」というが、「移築」と私は見ている。当時は全て駅構内だったことによるのか、状況経緯を示す記録が明確にはない所だが。こうした精査も展示等整備の上では必要になるだろう。

現在の入江から旧駅舎周辺まで、当時は全て室蘭駅構内だった。こうしたことも石炭積み出しのため鉄路が敷かれ、発展してきたことを示している。現在の地図に当時の駅構内の範囲を重ねるなど、こうした当時の状況がわかるようにすると、地域的な重みが一般の方にも伝わるのでは。

引き続き、検討をお願いしたい。

議事 5 その他

井口会長 「その他」ということですが、まず事務局から何かあれば。

事務局（松田） H30 宮古とのフェリー航路就航に向け、両地域の歴史・文化的な面の相互理解も求められるところ。については来年度日程未定ですが、こちらで宮古の歴史的なゆかりを講演いただく機会を予定しています。

井口会長 ほかに委員の皆様からありますか。

吉田委員 この審議会、開催は年度末の一回のみなのですか。

井口会長 そういうことはない。予算的な面もあるだろうが、審議準備等が整ったら招集する形。経過上必要であれば、来年度には早めに一回目、その後はもう一度といったことになるだろう。絵鞆小の件もあるので、事務局と開催については調整したい。

（閉会）

井口会長 それでは、議事がすべて終了しましたので、進行を事務局にお返しする。

事務局（北川） 井口会長、ありがとうございます。

それでは、本日の審議会これにて閉会します。委員の皆様お疲れ様でした。